



【韓国】 総合指数は週間で2.4%高と反発、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.4%高と反発。総じて買いが優勢となった。新型コロナウイルスの感染再拡大を警戒する売りが優勢となる場面もみられたが、下値は限定的。米株高や新型コロナ向けワクチン開発の進捗を好感した買いなどが相場を支えた。指数は15日に終値ベースで2月19日以来およそ5カ月ぶりの高値圏まで上昇。翌16日は下げたものの、17日に反発し、節目の2200ポイントを上回って週の取引を終えた。韓国政府は14日に160兆ウォン規模のテクノロジー支援を軸とした経済対策を発表。また、韓国銀行（中央銀行）は16日、政策金利を過去最低の0.50%に据え置いた。今週は上値の重い展開となるか。国内の経済指標では21日に生産者物価指数（PPI）、22日に20年4-6月期のGDP成長率が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で2.4%安と反落、今週は欧米株価に左右される展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.4%安と反落。新型コロナの感染拡大や米中対立激化への警戒感で週前半に下落し、週後半もルーブル安が重しとなり、反発力は弱かった。週明け13日は外部環境が良好だったものの、産金株などが売られ、指数は前週末比で0.9%安。14日は新型コロナの感染拡大を受けて複数の国で経済活動が再び停滞するとの懸念や米中対立激化でセンチメントが悪化し、1.4%安と続落した。15-16日は小幅に上昇したものの、17日はルーブル安や原油安を受けて0.3%安と反落した。個別ではガスプロムが週間で8.1%安となったほか、スグルトネフチガスが4.5%安、ルクオイルが3.0%安とエネルギー株が軒並み下落し、指数を押し下げた。今週は引き続き原油相場や欧米株価に左右される展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.1%高と小幅に続伸、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.1%高と小幅に続伸。鉄鋼やエネルギー株が上昇した一方、前週に急伸したビール株が反落し、指数の重しとなった。週明け13日は前週に大きく上昇したサイゴンビール・アルコール飲料が利益確定売りに押され、指数は前週末比0.3%安。指数は14日も小幅に続落したが、15-16日に続伸。指数先物取引の最終取引日に絡む買い注文も指数を押し上げた。17日はビンググループなどの不動産株が売られ、指数は0.5%下落したが、週間では小幅ながらプラス圏で終えた。個別では鉄鋼のホア・ファット・グループやエネルギーのベトナム石油総公社（ペトロリメックス）が2%超上昇した一方、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が6.8%安となり、重しとなった。今週は外部要因に左右されやすい神経質な展開か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%高、中央銀行が 2 会合連続の利下げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%高と 3 週続伸。1 週間を通じて終始 5000 ポイント台を維持した。週前半は中央銀行の金融政策決定会合を 16 日に控え、追加利下げへの期待感から買われたが、15 日は 6 月の貿易収支が 2 カ月連続の黒字だったものの買い材料視されず、指数は 3 日ぶりに反落。一方、16 日は中銀が 2 会合連続の利下げを決定し、7 日物リバースレポ金利が政策金利に採用された 16 年 8 月以降の最低水準となる 4.0%に引き下げられた効果で反発した。ただ、17 日は米ドル高ルピア安が進んだ影響で反落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.3%安、4-6 月期の GDP 速報値は前年同期比 12.6%減

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.3%安と続落。買い材料に乏しく、軟調な値動きだった。週初の 13 日は 9 日に実施された総選挙で与党の人民行動党の得票率が予想を下回ったことが嫌気され、指数は続落。14 日は 4-6 月期の GDP 速報値が前年同期比 12.6%減と市場予想から下振れた影響で売られたが、15 日は反動で買い戻され、前日比 1.1%高と反発した。ただ、勢いは続かず、16 日はゲンティン・シンガポールが傘下のリゾート・ワールド・セントーサの大規模な人員削減発表を受けて指数下落を主導。17 日も小幅に続落して引けた。今週は 23 日に 6 月の CPI、24 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%高、今週は 6 月の貿易統計に期待

SET 指数は週間で 0.7%高と反発。経済指標の発表が少ない中、不安定な値動きが続いた 1 週間だった。週初の 13 日は買い材料に乏しく続落。14 日もほぼ横ばいだったが、15 日はドバイ原油のスポット価格が上昇した効果でエネルギー株が買われ、指数は終値で前日比 1.0%高と 4 営業日ぶりに反発した。一方、16 日はウッタマ財務相の辞任による経済の先行き不透明感の広がりに加え、「OPEC プラス」が前日に開催した会合で、8 月から協調減産の規模を縮小する方針で合意したことも売り材料視されて反落。ただ、17 日には反発して引けている。今週は 22 日に 6 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%高、13 日に終値で 1600 ポイントを回復

クアラルンプール総合指数は週間で 0.3%高と 3 週続伸。週前半は 1600 ポイントを挟んでもみ合ったが、後半は終始この水準を下回る値動きだった。13 日は前週末に続き、ゴム手袋メーカー 2 社が買われ、指数は終値で約 6 カ月ぶりに 1600 ポイントを超えたものの、14 日は 3 営業日ぶりに反落。その後も買い材料に乏しく売り優勢の展開が続き、システム障害で午後 3 時 30 分以降の取引が中止になった 16 日まで 3 日続落した。一方、17 日は前日に下落したゴム手袋銘柄が買い戻された上、パーム油価格の上昇も追い風となり、指数は前日比 1.5%高と反発している。今週は 22 日に 6 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。